山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和５年１０月１７日（火）　第２８号
２次元ｺｰﾄﾞ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

最後の運動会、おかげさまで盛大に実施できました

当日、広報で写真撮影をされていたＴさんと話が一致したのは「子どもたちの笑顔」でした。すべての競技でステキな笑顔が見られたのが何よりでした。一番の目標「運動会を楽しむ」を体現していました。

ほのぼのとした光景がたくさん見られました。放送担当児童「（徒走で）お兄ちゃんがんばれ」「（ＰＴＡ競技で）お父さんビール抜きバイ」とマイク越しで身内にメッセージを送っていました。本部テントの後ろで見学していた卒業生が６年生の徒走出発前の一発芸に「かわいい」と言ってました。また徒走で一人ひとり名前をコールされたときに一緒に走る友が拍手を送っていたのを見て「いいなあ」と思いました。

地域参加のプログラムもみなさんに楽しんでもらえたようでした。「参加者みんなで創った最高の運動会」となり、スローガンを見事に達成できました！

自身を高めるこの一冊

「一流の人は上手にパクる」　俣野成敏著　祥伝社

ドキッとするタイトル本ですが、だからこそ思わず手に取ってしまいました。

学生時代のカンニングは処罰の対象になりますが、社会人になってからのカンニングはむしろ褒められます。（前掲書ｐ３）

学生のカンニングはひとつの正解を書き写すことですが、サラリーマンのカンニングは、不特定多数情報の中から自分にとって有益な情報をチョイスし、それを自分のビジネスに応用することです。（前掲書ｐ２２）

俣野氏は「感動レベルの差が収集力を左右する」（ｐ４０）と言っていますが、まったく同感です。身の回りにあふれる情報をキャッチできる人と見過ごす人がいますが、その原動力が「感動」だそうです。日常の変化に対して「おや？」と感じる。感じたらメモする、調べてみる。そして、そのことが意外なところで役に立ったりするのです。内容が面白くて、私は一気に読んでしまいました。

潤徳抄Ⅱ

昨日、歌手の谷村新司さんの訃報が入った。谷村さんはアリスのメンバーである▼私が初めて買ったレコードは「チャンピオン」。その他数々の名曲を輩出してきた。彼らの曲が私の青春時代以降をずっと支えてきたと言っても過言ではない。カラオケでも何度となく歌ってきたほどである▼中国でも大きなニュースになったとのことだ。彼は上海音楽学院で教授を務めたこともある。特に「昴（すばる）」は中国でも有名で、いい曲は国境を越えて愛される〝歌の架け橋〟とも表現された▼「ジョニーの子守歌」「狂った果実」等はほろ苦い青春時代を思い出させてくれる。小川さんとのデュエット曲は大きな話題になった。毎年夏休みの終わりには某ＴＶ番組で「サライ」が流れた。中学校担任時代には合唱コンクール曲に選んだこともある▼私の人生に大きく関わってきた谷村さんのご冥福をお祈りしたい。「さらば昴よ」